

資料 1

第 4 期大津市観光交流基本計画（案）に対するパブリックコメントでの意見内容と市の考え方

- ・意見募集期間 令和7年12月25日（木）～令和8年1月13日（火）
- ・意見の提出者 11名
- ・意見総数 25件

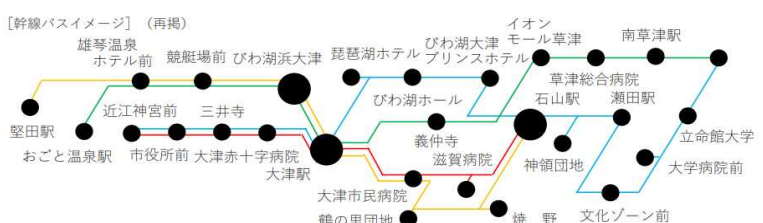
No.	該当箇所		ご意見	ご意見に対する本市の考え方
	項	詳細箇所		
1	12	第2章 現状と課題 強み4 周辺大都市からアクセスしやすいロケーション	<p>前回のパブコメでも指摘したが 大津へのアクセスは12 頁に記載の通りであるが 問題は 市内での移動手段と費用である。こんな強みを強調するより 今後 大津市は市内での移動について 都市構造と公共交通を持続可能に改善することでの強みを記載してはどうか。市内の移動については 頑張る京阪石坂線 地味で規模小さいが大津市環境部で推進するレンタサイクル等明るい兆しもある。大阪市内では 電動キックボードが旅の人で利用しやすい事業が進んでいる。大津固有の移動手段を大津港周辺、文化ゾーン内、三井寺周辺、新庁舎と皇子山総合運動公園などでの事業は観光誘致の可能性があるのでないか。都市計画や福祉関連の事業者からの情報も役立つのではないか。</p>	<p>ご意見につきましては、今後の施策等の参考といたします。</p>
2	13	第2章 現状と課題 (サイクルステーションに関する記述)	<p>●ビワイチの深化と「宿泊・消費型サイクルツーリズム」の推進 【意見の内容】 「ビワイチ」を軸としたサイクルツーリズムの推進について、本計画案では通過型の観光から「滞在・消費型」への転換が示唆されています。これに対し、自転車利用者向けの「サイクルステーション」の拡充に加え、自転車を館内に持ち込める宿泊施設の認定や支援など、「サイクリスト・フレンドリーな環境整備」をより具体的に記述いただくことを提案します。</p>	<p>p. 25の「施策2 既存コンテンツの高付加価値化・連携強化」の取組例に、「サイクルツーリズム」の文言を追記します。</p>

No.	該当箇所		ご意見	ご意見に対する本市の考え方
	項	詳細箇所		
3	13	第2章 現状と課題 ■中央エリアの強み	<p>■宿泊 琵琶湖自体には非常に大きな魅力があると思います。 その反面、滋賀県の観光スポットは琵琶湖があるが故に、移動し難いという印象も持ってます。 故に琵琶湖を楽しみながら移動も出来れば大津市を宿泊拠点に観光しやすいかと思えます。 湖をよりダイレクトに楽しめる方法としては「船」があると思います。 例えば、大津港から長浜や彦根、今津などに手軽（便数など）に利用できる船の航路があれば利用してみたいと思います。 船内でちょっとした滋賀特産の軽食や飲み物を楽しめると大変魅力に思えます。</p> <p>また、スポーツタイプの自転車、折り畳み自転車等を載せることができれば、移動先での行動範囲も広がり局所的なオーバーツーリズムになることも防げ、琵琶湖がある滋賀県ならではの楽しみ方になると思います。（移動自体が観光要素になる。静的な観光とサイクリングというアクティビティを同時に楽しむ。） そういった楽しみ方が手軽に出来るようになると、「滋賀観光のハブ拠点」として大津市での宿泊は魅力あるものになると思います。</p>	<p>ご意見につきましては、今後の施策等の参考といたします。</p>
4	14	第2章 現状と課題 ■祭	<p>山王祭など決まったイベントだけに観光客が多く来て地域住民が楽しめない。宵宮落としでは観光客が増えて神輿と観光客の事故にならないか心配。 歴史や京町家（昔ながらの床几のある家）など大津市にはたくさんあるにもかかわらず保全活動や補助金がない。今もどんどん消えている。 外国人や旅行者向けばかりホテルなど作りすぎないでほしい。景観が余計に悪くなる。地域住民の生活式配慮した計画にしてほしい。</p>	<p>祭は観光資源にもなり得るものであり、祭自体の継続のためにも、観光客の観光消費による地域経済の活性化を両立させることが大切であると考えています。 また、京町屋や石積みなど歴史的な景観も大切な観光資源であることから、p. 25の「施策3 インバウンド対応を含めた観光インフラ・受入環境の整備」に「伝統的な街並みや景観などを活用した歴史まちづくり」の文言を追記します。</p>

No.	該当箇所		ご意見	ご意見に対する本市の考え方
	項	詳細箇所		
5	13 20	第2章 現状と課題 (サイクリング、ピ ワイチ言及箇所)	<p>サイクルツーリズムについて、これまでの個人的な体験や感じていることから、意見を述べさせていただきます。</p> <p>私は、サイクルツーリズムは、ニセコのように世界的なリゾート地へと発展していく可能性を持った観光分野ではないかと感じています。かつて、日本人の間ではスキーやスノーボードを中心としたスノーリゾートは、成熟した分野、あるいは以前ほどの勢いがなくなった分野と捉えられていた時期があったように思います。しかし、海外からの評価や関心をきっかけに、ニセコは世界中から多くの人々が訪れる国際的な観光地へと変化していきました。国内だけの視点では気づきにくかった魅力が、外からの目によって改めて見直された例だと感じています。サイクルツーリズムも、これと少し似た状況にあるのではないのでしょうか。日本では、自転車は日常の移動手段や個人の趣味として捉えられることが多い一方で、海外では、サイクリングそのものを目的とした旅行が広く楽しまれています。日本の自然環境や景観、治安の良さは、そうした旅行スタイルと相性が良く、世界的に見ても魅力のある地域になり得るのではないかと感じます。その中で、ピワイチ、そして滋賀県大津市は、サイクルツーリズムの拠点として特に恵まれた条件を備えているように思います。日本一の湖である琵琶湖を中心に走れる環境があり、関西国際空港からのアクセスの良さ、京都や大阪といった世界的な観光地からの近さは、国内外のサイクリストにとって大きな魅力になるのではないのでしょうか。本計画において、こうした可能性を一つの視点として捉え、サイクルツーリズムを将来に向けた観光の選択肢の一つとして位置付けていただくことで、大津市の新たな魅力づくりにつながることを期待しています。</p>	p. 25の「施策2 既存コンテンツの高付加価値化・連携強化」の取組例に、「サイクルツーリズム」の文言を追記します。
6	20 25	第2章 現状と課題第4 章 基本方針と推進す る施策 基本方針1 施策3	<p>●インバウンド（訪日外国人）向けプレミアム・サイクルツーリズムの推進</p> <p>【意見の内容】</p> <p>本計画にある「海外観光客の誘致」において、欧米豪を中心とした富裕層は、質の高いアクティビティへの支出を惜しまない傾向にあります。「ピワイチバイク」で提供しているような高品質なスポーツバイクのレンタルと、専門ガイドによる歴史文化解説（比叡山坂本や石山寺など）を組み合わせた「プレミアムな体験型観光」の整備などの施策が考えられます。</p> <p>特に、大津市の起伏に富んだ地勢を活かし、E-BIKE（電動アシスト付スポーツ自転車）を活用した山岳エリアへの周遊促進は、他の地域との差別化に繋がります。市内の観光施設におけるE-BIKE充電スポットの整備支援や、多言語でのサイクリングマップ作成など、インバウンドが安心してスポーツバイクを利用できる環境づくりを計画反映を要望します。</p>	p. 25の「施策2 既存コンテンツの高付加価値化・連携強化」の取組例に、「サイクルツーリズム」の文言を追記します。
7	20 25 27	第2章 現状と課題第4 章 基本方針と推進す る施策 基本方針1 施策3 基本方針3 施策2	<p>●サイクルツーリズムを支える「ソフト面の受入環境整備」と教育</p> <p>【意見の内容】</p> <p>ピワイチのブランド力を高めるためには、ハード（自転車道）の整備に加え、サイクリストを受け入れる「ソフト（人・店舗）」の質向上が不可欠です。</p> <p>本計画において、市内の飲食店や商店を対象とした「サイクルフレンドリー講習会」の開催や、トラブル時のサポート体制（回収サービス等）の官民連携での構築を提案します。また、市民や事業者向けに、自転車を活用した観光振興が地域のQOL（生活の質）向上や脱炭素にどう寄与するかを周知する啓発活動も重要です。「ピワイチバイク」のような専門事業者の知見を、地域の受入態勢の底上げに活用する仕組みを計画案に記述していただきたいです。</p>	ご意見につきましては、今後の施策等の参考といたします。

No.	該当箇所		ご意見	ご意見に対する本市の考え方
	項	詳細箇所		
8	25	第4章 基本方針と推進する施策 基本方針1	<p>大津市には、びわ湖をはじめとする豊かな自然、歴史ある寺社、温泉、食文化など、魅力的な観光資源が数多く存在し、市内各地では年間を通じて様々なイベントが開催されています。さらに都市部の混雑を避け、静かで穏やかな環境の中でゆったりと旅を楽しめる、他にはない特長を有しています。一方で、こうした魅力は「知る人ぞ知る存在」にとどまっており、まだ十分に認知されているとは言えないのが現状です。これらの魅力をより多くの方に知っていただき、実際に大津を訪れ、体験していただくことが重要であると考えます。この“大津ならではの価値”を明確に打ち出し、ターゲットに応じた情報発信を強化することで、観光地としての認知向上と来訪意欲の喚起を図っていかねばならないと考えております。また、大津市の歴史や文化、自然を活かしたここでしか味わえないコンテンツの展開も検討いたしました。記憶に残る体験と持ち帰れる記憶をご提案させていただきます。</p> <p>①大津市民全員観光大使 - 140万人インフルエンサー化プロジェクト - 【目的】 ・大津市の魅力発信力の強化・市民による“リアルで親近感のある情報”の拡散・観光客目線に近い情報発信による来訪意欲の喚起</p> <p>②大津のいいとこ・いいことまとめサイト 【目的】 ・観光情報の一元化による利用者利便性の向上・情報取得から来訪検討までの導線強化・大津観光の“入口サイト”としての機能強化・市内回遊・滞在促進につながる情報基盤の整備</p> <p>③うみのこ体験ステイ 【目的】 ・新たな観光目的の創出・次世代を見据えた「生涯顧客」の獲得・環境教育・SDGsを軸とした大津市の価値発信・家族旅行による宿泊需要の創出</p> <p>④大津土産の新定番づくり - 大津絵の活用 - 【目的】 ・大津ならではの定番土産の創出・伝統文化の現代的継承・市内消費の底上げ・若年層・インバウンドへの訴求</p> <p>⑤Lake Bus/ Water Taxi 【目的】 ・観光二次交通の強化・市内回遊性の向上・びわ湖を活かした新たな移動体験の創出・交通混雑の緩和と環境負荷低減化</p> <p>⑥びわ湖3拠点花火開催プロジェクト 【目的】 ・国内外への大津市の認知向上・観光滞在時間の延伸・宿泊需要の創出・オフシーズンの集客対策</p> <p>⑦大津いいとこめぐり周遊バスプロジェクト 【目的】 ・観光客の移動手段確保・市内回遊性の向上による名所・商店街の消費喚起・公共交通の利用促進による渋滞緩和・環境負荷軽減</p> <p>⑧大津おいしいもの発見マルシェ 【目的】 ・観光目的の創出・地元事業者支援と消費喚起・観光客および市民の市内回遊促進</p> <p>⑨大津まるごとクーポン 【目的】 ・市内消費を一元的に促進・消費者の利便性向上・観光客の消費単価の向上</p> <p>⑩大津ロケ地誘致プロジェクト 【目的】 ・大津の魅力を全国・海外へ広く発信・“大津＝風景の美しい街”というイメージの定着・地域経済の活性化（ロケ関連消費、聖地巡礼）</p>	<p>魅力が十分に認知されていない現状や、大津ならではの価値をターゲットに応じて情報発信することにつきましては、p. 16及びp. 26に記載のとおりです。ご意見につきましては、今後の施策等の参考といたします。</p>

No.	該当箇所		ご意見	ご意見に対する本市の考え方
	項	詳細箇所		
9	25	第4章 基本方針と推進とする施策 基本方針1 施策1、2	<p>施策 1、施策 2 の中の具体的な推進する取組例にサイクルツーリズムを明記するのが良いと思います。大津港サイクルステーションでの自転車貸出数は令和 5 年から令和 7 年にかけて 3.5 倍に成長しており、インバウンド観光客の利用率も 30%を超えており、大津市における観光消費額に貢献していると考えられるため。サイクルツーリズムの観光消費額は世界的な規模で見ると 2030 年まで年間 9%で成長すると考えられており、大きな可能性を秘めています。日本ではしまなみ海道がサイクルツーリズムの先駆者として知られておりますが、その他のエリアではまだまだサイクルツーリズムの印象は薄いのが現状です。ビワイチの認知度が広がってきている今このタイミングで積極的に大津市を起点としたサイクルツーリズム商品の開発、PR に取組むことが将来の観光地として選ばれるようになる起爆剤となると考えられます。海外ではサイクルツーリズムが、日本でいうところのバスで回るツアーと同じレベルでカテゴリーされ広く取り扱われているのが現状です。世界的に大きなマーケットに参入することが、今後の観光振興に必要だと感じています。</p>	p. 25の「施策2 既存コンテンツの高付加価値化・連携強化」の取組例に、「サイクルツーリズム」の文言を追記します。
10	25	第4章 基本方針と推進とする施策 基本方針1	<p>関東在住の者です。先日、初めて滋賀県高島市を旅行で訪れ、琵琶湖の雄大な景観や湖岸の心地よさ、地域の落ち着いた雰囲気に大きな魅力を感じました。首都圏から一定の距離はあるものの、それを上回る価値があり、「また訪れたい」「次は別のエリアも巡ってみたい」と思える観光地であると実感しました。滞在中、湖岸を自転車で移動する人々の姿が印象的で、サイクリングは琵琶湖の魅力をもっと自然に体感できる方法の一つだと感じました。しまなみ海道に代表されるように、サイクリング自体を目的とした観光は、景観や地域の魅力を楽しみながら周遊でき、滞在時間の延長や宿泊・飲食等の地域消費にもつながる有効な観光手法であると考えます。そのような視点で見ると、大津市は琵琶湖の玄関口としての立地に加え、疏水や歴史・文化資源、門前町など多様な魅力を有しており、サイクリング観光との親和性が非常に高い都市だと感じます。私自身、高島市を訪れた経験から、次回は大津市を訪れ、湖岸や歴史資源を自転車で巡る観光を体験してみたいと考えるようになりました。</p> <p>本計画において、サイクリングを単なる移動手段としてではなく、地域の魅力を体感する観光コンテンツの一つとして明確に位置付け、分かりやすいルート設定や体験設計、地域や民間事業者との連携を含めて整理していただくことで、首都圏を含む新たな来訪者の誘客や、持続可能な観光振興につながるものと考えます。</p>	p. 25の「施策2 既存コンテンツの高付加価値化・連携強化」の取組例に、「サイクルツーリズム」の文言を追記します。

No.	該当箇所		ご意見	ご意見に対する本市の考え方
	項	詳細箇所		
11	25	第4章 基本方針と推進とする施策 基本方針1	<p>神奈川在住の者です。定年後に健康づくりの一環としてロードバイクを始めてから、自転車で日本各地を旅するようになりました。これまでに関東近郊だけでなく、地方のサイクリングコースにも足を運び、地域ごとの景色や雰囲気、人とのふれあいを楽しんでいます。自転車で走ると、車や電車では気づかない地域の良さを感じられるのが魅力だと思っています。関東では、霞ヶ浦をよく走っています。一周できるルートが分かりやすく整備されており、道に迷いにくいことや、途中で休憩できる場所が点在していることがとてもありがたいです。地元の方と観光で来た人が同じように使っている様子を見ると、自転車が地域に自然に溶け込んでいると感じます。また、しまなみ海道も訪れたことがあります。レンタサイクルが充実していて、出発した場所と違う場所で返却できる点がとても便利でした。自転車を持っていなくても気軽に楽しめるため、初心者や観光目的の人が多く、にぎわっている印象でした。自転車で走ること自体が観光の目的になっている点が、とても良い仕組みだと感じました。</p> <p>琵琶湖周辺は、景色の良さや距離感を考えると、日本でも有数のサイクリングに向けた場所だと思えます。ただ、観光で訪れた人が気軽に使えるレンタサイクルや、途中で返却できる拠点は、まだ少ないように感じました。特に、電車で来た人が駅から自転車に乗り、別の場所で返して観光を続けられるようになると、とても使いやすくなると思います。本計画の中で、霞ヶ浦やしまなみ海道のような事例を参考にしながら、レンタサイクルの数を増やしたり、乗り捨てができる拠点を増やしたりしていただくと、自転車を持たない観光客や、私のような定年後世代にとっても琵琶湖を訪れやすくなると思います。自転車での旅がもっと気軽に楽しめるようになることを期待しています。</p>	p. 25の「施策2 既存コンテンツの高付加価値化・連携強化」の取組例に、「サイクルツーリズム」の文言を追記します。
12	25	第4章 基本方針と推進とする施策 基本方針1	<p>観光客が移動しやすい、使いやすい公共交通の実現</p> <p>■ JR京都駅から近い大津駅から観光地へ乗り換えなしで行ける路線バスの充実。 JRで大津駅まで来て、そこから観光地へほぼどこにも行けない現実からの脱却。</p>  <p>※滋賀県の「滋賀地域交通計画」と連動させ、大津市内を自由に観光できるようにする。</p> <p>■ 観光者が使いやすい「大津市内観光共通26時間券」の発売。 現状…複数の事業者が自社を囲む乗り放題券・企画乗車券の設定。 (大津市内中心部を公共交通だけで移動する乗り放題券・企画乗車券は存在しない。) →大津市内を京阪電鉄、京阪バス、近江鉄道バス、江若交通バス、帝産湖南交通が共通で乗り放題となるベーシックの乗車券の発売。 …現行設定されている比叡山などの企画乗車券にも、上記乗り放題のベーシック区間を含む設定とする。</p>	本市においては、公共交通に関しては「大津市地域公共交通計画」で定めるところであり、ご意見につきましては、今後の施策等の参考といたします。

No.	該当箇所		ご意見	ご意見に対する本市の考え方
	項	詳細箇所		
13	25	第4章 基本方針と推進とする施策 基本方針1	<p>観光客が移動しやすい、使いやすい公共交通の実現</p> <p>■ JRの空港アクセス特急「関空特急はるか」号の大津京発着の推進。 山陰本線（嵯峨野線）のホームから発着している「関空特急はるか号」を京都から先、山科駅まで延伸させ、地下鉄東西線への誘導及び山陰線（嵯峨野線）ホームの発着ホームを増やす計画が浮上→折返のポイント増設のための莫大なコストに加え、現状、ポイントを渡ることがなかった内側線を走る大津～京都の列車がポイント通過が必要となり、大津～京都間の所用時間の増大が予想される。輸送障害等によるダイヤ乱れが発生した時、新たなポイントがボトルネックとなる可能性がある。 湖西線大津京駅発着とすれば、大津京駅での折り返し時分は10分程度確保可能で、山科駅発着と同様、運用数を増やさずに実現可能。ポイント増設を最小限に抑えることができ、江若交通バスの浜大津線（102番・103番系統）を大津京駅を経由してダイヤを調整すれば、雄琴温泉ホテル周辺の送迎バスとして路線バスが活用することができる。大津観光だけでなく、京都観光でも大津市内に宿泊してもらうことができる。</p>	<p>本市においては、公共交通に関しては「大津市地域公共交通計画」で定めるところであり、ご意見につきましては、今後の施策等の参考といたします。</p>
14	25	第4章 基本方針と推進とする施策 基本方針1	<p>■ 自転車の活用 サイクリング 浮御堂などは知名度も高く魅力的な名所で、大津中心地からの距離も日帰りでサイクリングを楽しむには最適な距離だと思います。 ただ、琵琶湖大橋～大津中心地に関しては、交通量の多い道路を走ることになるので「道路環境の改善」を期待します。</p> <p>大津市内の移動 京都-大津間はJRや京津線でのアクセスが良く、個人的にも半日程度でリラックスできる時間を持ちたい時には大津を訪問します。 ただ、大津に行った後の移動手段に少し困ることが多いです。 「レンタサイクルが複数の駅近く（というか構内、隣接）」にあればより多くの観光地を巡ることが出来、徒歩よりも広範囲の移動が可能ですので、名所周辺での行動範囲も広がり局所的なオーバーツーリズムの緩和も期待できると思います。 また、近隣の観光地である京都市との組み合わせでの観光も容易になると思います。 例えば、広範囲なエリアからアクセスしやすいJR大津駅で借りて、京都市の中心地にアクセスしやすいびわこ浜大津駅で返却といった使い方ができると便利と思います。</p> <p>海外観光客 交通ルールが異なる異国でのサイクリングでの安全確保は重要になると思います。 パンフレット等での啓蒙に加えて、「実際の標識類で海外の方の安全確保」が出来るようなもの（道路標識を補助するようなもの）が増えると良いと思います。</p>	<p>p. 25の「施策2 既存コンテンツの高付加価値化・連携強化」の取組例に、「サイクルツーリズム」の文言を追記します。</p>

No.	該当箇所		ご意見	ご意見に対する本市の考え方
	項	詳細箇所		
15	26	第4章 基本方針と推進する施策 基本方針2	<p>既存の枠にとられない情報発信</p> <p>■ J R 京都駅への大津観光案内所の設置。</p> <p>・観光客の動線にあたる、J R 京都駅中央改札口あるいは西改札口付近に「大津観光案内所」を設置。 →大津の魅力発信とともに、京都と大津が目と鼻の先であることを積極的にPRし、観光の選択地に含めてもらえるようにする。（準備が整うまでは、取り急ぎ、京都総合観光案内所内にて大津のブースを設置させてもらう。）</p> <p>・旅行会社等のパック旅行を利用してJ R 京都駅から各地へ帰宅する際、指定席券で決められた列車以前の列車には乗車できないケースが多く、京都駅に早く着けば、混雑している京都駅で時間を過ごさないといけない。そのようなときにも、京都と大津が目と鼻の先であることが伝われば、お越しいただけると考えられる（あらかじめ「1時間でまわる京都から大津市内をまわるモデルプラン」のようなパンフレットなどを準備しておく）。</p>	ご意見につきましては、今後の施策等の参考といたします。
16	26	第4章 基本方針と推進する施策 基本方針2 施策4	<p>■魅力発信</p> <p>残念ながら滋賀県および大津市の観光としての知名度はそれほど高いとは感じてません。隣接する「京都市」と関連した楽しみ方、巡り方などで知名度が上がればよいと思います。</p> <p>琵琶湖疏水の観光船や小関越のサイクリングなどを使って、京都市～大津市間の移動を兼ねたコンテンツが増え、それらを発信できればよいと思います。</p>	ご意見につきましては、今後の施策等の参考といたします。
17	26 全体	第4章 基本方針と推進する施策 および全般	<p>移動手段の快適性についての課題と対策を記載する。</p> <p>「持続可能な公共交通」として柔軟な事業を始める。路線バス・観光バス・新たな移動手段等。</p> <p>なお 現在策定中の第2次大津市地域公共交通計画（案）には14頁に「MICE誘致やその他観光振興策と連動した利用促進」としての施策があるが趣旨は「地域公共交通維持・確保のための利用促進方策の実施」である。中途半端な予算執行にならない事を市民として危惧する。米国（シカゴ）や欧州ではダウンタウンの路線バス・鉄道乗り放題 1日～10日等乗り放題チケット等があり便利で安価であるが大津市内は路線バスが少なく複数業者が運行しているので観光向けには困難な状況である。過去に頓挫した関空からの遊覧飛行、大津港から土日だけの一番丸、中国資本のレンタサイクル、客寄せの自動運転バス。。。等は話題性があるが市民の利用利便性と安定運行に無理があった。</p>	ご意見につきましては、今後の施策等の参考といたします。
18	27	第4章 基本方針と推進とする施策 基本方針3 施策2	<p>・サイクルツーリズムに対応可能なガイド人材の育成を追記するのがよいと思います。</p>	ご意見につきましては、今後の施策等の参考といたします。

No.	該当箇所		ご意見	ご意見に対する本市の考え方
	項	詳細箇所		
19	28	第4章 基本方針と推進する施策 基本方針4	MICE誘致については その規模と既存施設から特段取り上げるほどのことはない。大津市の人材投入と費用対効果で見直してはどうか。現在のMICE 推進での個々の事業の数と各々の規模について 目標と実績を資料編か別途公開して 識者から意見を求めているはどうか。大阪市のような箱ものでの長期にわたって苦勞して地元・近隣の自由な利用で維持していることはご存知かと思う。市内の大学は 滋賀医大 龍谷大学 成安造形大が学会を開催するに際して大津市が協力するくらいではないか。メジャーではない アカデミックではないような種類の中小規模の会議なら 現状の施設で十分ではないか。 コラボ21 やピアザ淡海でよいのではないか。	p. 28に記載のとおり、MICEは一般的な観光に比べて、経済波及・都市の知名度向上・レガシー創出など、様々な側面で大きな効果をもたらす施策であることから、原案のとおりとします。
20	35	第6章 計画推進体制 (1) 主な役割と将来像	琵琶湖観光協会など地元と大手二件のホテル以外の登用を検討する。例えば 市外・県外の有力旅行会社からの安定的な旅行者の獲得を追加する。現状では 市内の有力事業者がイエスと言わなければゴーできない体質が問題ではないか。計画書にどう記載するかは検討して欲しい。	びわ湖大津観光協会をはじめ、関係者の役割と将来像を記載しており、ご指摘のような、特定のホテルに関する記載ではありませんので、原案のとおりとします。
21	35	第6章 計画推進体制 (1) 主な役割と将来像 (2) 目指す体制図	本計画に関係する審議会を創設して 学識経験者、市外県外の有識者、一般大津市民での熟議により観光振興課主導で4年後の姿を設定する。該当箇所 35 頁の図のフローでは 誰も責任をもって先導できない。	本計画は市内外の観光事業者や学識経験者などで構成する意見交換会で意見を聴取しながら策定を進めているところです。
22	13 36	第2章 現状と課題 第6章 計画推進体制 広域連携について	●大津港（大津駅周辺）を起点とした「大津発ビワイチ」の拠点化 【意見の内容】 大津市はビワイチ（滋賀県一周）の南の玄関口でありながら、多くのサイクリストが北湖を中心としたコースを選択し、大津市内が「通過点」となっている現状があります。 「ビワイチバイク」のような本格的なロードバイク・クロスバイクのレンタル拠点を、大津港や大津駅周辺の公共空間とさらに深く連携させることを提案します。例えば、市内の宿泊施設と連携した「手ぶらでビワイチ（大津で借りて大津で泊まり、大津に返す）」プランの推奨や、大津港を起点とする「南湖一周（ナンコイチ）」のプロモーションを強化することで、市内の滞在時間延長と宿泊客数の増加を図るなどが考えられます。計画案において、単なる通過ルートの整備だけでなく、「出発・到着地点としての機能強化」を明文化していただきたいと考えます。	ご意見につきましては、今後の施策等の参考といたします。

No.	該当箇所		ご意見	ご意見に対する本市の考え方
	項	詳細箇所		
23	全体	-	<p>本計画全般を通して 利用者(旅の人と市民)より事業者, 市内の施設, 及び行政からの視点で記載されている。全体として「大津にはいいものがある, 自然環境が素晴らしい, そしてそのことの情報発信が不十分だ。。。」という底流の計画書である。あたかも 旅行業の専門学校の教科書の様である。A I ツールか、コンサル会社のひな型に大津市の統計データを投入して完成したのではないかと目を疑う。</p> <p>・理由</p> <p>① 利用者(旅の人と市民)視点-1 大津駅 大津インタを降りて さてどうするとなったときに何かがあるか。SNSやネット情報から そのような人はもともと 大津に来ない</p> <p>② 利用者(旅の人と市民)視点-2 大河ドラマや話題の図書読んで現地に来た さてどうする。一定の目的達成 一定の満足 ——> でも 何かないと 二度と来ない</p> <p>③ 利用者(旅の人と市民)視点-3 歴史文化の興味から石山寺と三井寺に来た さて。。 一定の目的達成 一定の満足 ——> でも 何かないと 二度と来ない</p> <p>④ 利用者(旅の人と市民)視点-4 会議や行事で来た ——> エクスカーションが設定されていたらそれだけ わざわざ 二度と大津に来ない</p> <p>⑤ 利用者(旅の人と市民)視点-5 琵琶湖の自然と行事で来た ——> 気に入っても多様な施設や移動が不十分</p> <p>⑥ 昭和の時代 琵琶湖観光やスキー場に淀屋橋から京阪の夜行電車で人が押し寄せたころの記憶が観光協会や関係者にあるのではないか。びわこ大花火 お隣のイナズマロックフェス 大津三大祭礼などの企画実行は一定の効果はあるが 本計画はそのようなことを目指すものではない。</p> <p>・提案</p> <p>A. 【計画全体】を上記の理由に応える構成に全面的に作り直す。 原案の通りであっても 今回のパブコメの「本市の考え方」で大津市の4年後の姿への方策・施策について丁寧にご教示いただきたい。</p>	<p>本計画は来訪者や非来訪者への調査、観光動態調査などの結果に基づき、観光による地域活性化の実現を目的に策定しております。なお、大津市の4年後の姿につきましては、第3章の目指す姿及び第5章の数値目標 (KPI) に記載のとおりであり、方策・施策につきましては、第4章の基本方針と推進する施策に記載のとおりです。</p>
24	全体	-	<p>「都市構造の見直し」について記載する。 例えば 現在進行中の下記について追記する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滋賀県の事業：滋賀県大津港活性化・再整備基本構想と連動する長期構想 ・滋賀県の事業：新琵琶湖文化館会館後の人の流れを想定した事業 ・大津港, 大津駅, 大津市中心市街地, 及び大津港からなぎさ公園, 膳所公園, 大津市科学館, 粟津の晴嵐, 瀬田の唐橋周辺へ一体的な整備知名度は低いが大津市の科学館(プラネタリウム)は激しい予算・人員でも当該規模で僅差の全国2位である。科学のまちとしての核になりえる。現行の観光協会や関係者は見落としているのではないか。 ・大津市の都市構造の見直しで レンタサイクル・キックボード・新たなモバイルの導入 	<p>「都市構造の見直し」に関しては、本計画で定めるべき事項でないため、原案のとおりとします。</p>
25	全体	-	<p>資料に関して文字数が多く、読んで理解するだけでも結構手間がかかるので、ストーリー仕立ての漫画など絵などの文字以外での表現で資料作りをした方が老若男女に幅広くご理解いただけるのではないかと考えた。</p>	<p>ストーリー仕立ての漫画や絵など文字以外で本計画の内容を表現することは困難ではありますが、別途、本計画の概要版を作成する予定です。</p>